



モルドバ共和国北部で開かれた「子どもキャンプ」 2021年夏



ミッション・宣教の声 主幹
黒田 禎一郎

傾聴は人間関係の祝福

彼女にはマリヤという姉妹がいたが、主の足もとに座って、
主のことばに聞き入っていた。
ルカ10:39

「あの人は、人の話を全く聞いていない!」と怒る人がいます。聞いていれば理解できることも、肝心なことを聞いていないため問題となるのです。聞き逃しという言葉もありますが、相手の話をよく聴くことは大切です。人間関係で大切な要素の一つ、それは「良い聴き手になること」です。

今月の聖句はよく知られた箇所です。マルタは接待に超多忙でした。一方、マリヤは主イエスの足もとに座り「主のことば」に耳を傾けていました。そこで忍耐の限界を感じたマルタは、「主よ。私の姉妹が私だけにもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのですか。私の手伝いをするように、おっしゃってください。」(10:40)と言いました。そこでイエスは教えられました。「マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って、心を乱しています。しかし、必要なことは一つだけです。マリヤはその良いほうを選びました。それが彼女から取り上げられることはありません。」(10:41,42)

イエスはマルタを非難されたのではなく、「マリヤはその良いほうを選んだ」と言われました。イエスは「良い聴き手になる

こと」を評価されました。私たちも互いの関係において、傾聴は大切なことです。大切な3点を覚えましょう。

- ①主に聴くこと。なにはともあれ、私たちは主が何と語られるか傾聴することです。主は礼拝説教を通し、個人のデボーションを通し、信仰書を通し、また兄弟姉妹との交わりを通し語られることがあります。主が語られる方法は多種多様です。私たちは良い聴き手でしょうか。
- ②自分の心に聴くこと。人は自分を偽ることはできません。正直に自分に向き合うことです。心静めて黙想し、自分の心に正直に尋ね聴くことです。神の前に生きる人とは正直な人です。私たちは良い聴き手でしょうか。
- ③相手に聞くことです。じつは、私たちは前の2点を踏まえてこそ、他人の話に耳を傾けることができるのです。傾聴こそ人間関係の祝福の鍵です。

私たちもマリヤのように「良い聴き手」なろうではありませんか。

コロナ禍の海外邦人宣教20

JCFの歩みを見る神の導き

オーストラリア・ブリスベンJCF
代表 菊池 俊 介

六月は南半球の冬で、沖縄と同じ緯度にあるここブリスベンでも「極地性突風」の洗礼によって早い冬を迎えました。日本ではそろそろ梅雨に入る頃でしょう。今回は、コロナ禍がブリスベンの宣教、教会の集まりの状況を変え、その影響が新しい形のオンラインを中心にしたミニストリーが生まれてきたこと、神様は時には私たちが望まない形を取ることで、ご自分の計画を成就されることがあること、更に事後発見する恵みがあることを中心にコロナの近況をお伝えいたしました。今回はJCFの今までの歩みを通して、今までと違う形のミニストリーがJCFで始まってきている、そしてコロナ後のこれからの展望について証しさせていただきます。

ブリスベンJCFは洗礼後まもない私たち夫婦が、ブリスベンに移ることが決まった時から始まりました。当時シドニーで日本人宣教をしていた、アメリカ人ウッズ夫妻がブリスベンで日本人の為の集まりを開くよう祈ってくださいました。当時のブリスベンにはいくつかの小規模の集まりがありましたが、連絡先として機能する団体が無い事に気付きどのような集まりにするべきか祈りました。日本人が現地の教会にも参加でき、国際結婚した人も参加できるようにと、月一度のバイリンガルの集会という形に導かれ、2002年の2月から集会は始まりました。数カ所の現地教会とは日本人ミニストリーの協力相手、そして奉仕や連絡のための拠点として、いくつかの日本人グループと協力し合いました。

ブリスベンJCF初期と最近

初期においては、日本文化体験、教会が集まる国際祭りに日本人グループとして参加し花を添えました。日本からのゲスト参加のブリスベン拠点としても早くから用いられ、創造科学の特別集会、シンガーソングライターの岩渕まことご夫妻の2回にわたるオーストラリアツアーのサポート、アーサー・ホーランド先生との交わりなどの色々な奉仕にもちいら



オセアニア邦人大聖会

ました。信仰の浅い私達でしたが、ウッズ牧師夫妻、エドワーズ牧師夫妻、近年においては「宣教の声」の黒田禎一郎牧師夫妻などベテラン教師・牧師達が備えられ、更にはリバーライフバプテスト教会(当時KBCーケンモアバプテスト教会)クリークロード長老派教会、モアパークバプテスト教会などの教会が牧師を始め、教会によっては組織ぐるみでサポート下さいました。新しく力もないものにも、神様の大きな愛と、その恵みが示され、新しく起こされた、聖書研究会などで、信仰に目覚める者たちが絶えず起こされてきたこと、そして、ある意味しげみから切れた海外だからこそ、入信された方もおられたようで、まさに思いもよらない神の導きの手に賛美を寄せずにはいられない経験をしました。現地教会と協力関係にあるため、日本を現地に持つだけでなく、現地信者との交わり、コース、プログラム、イベントなどのオーストラリアの教会を日本人に届ける橋渡しにも用いられました。

コロナ前には大学のチャプレンとして関わる機会が与えられ、JCFの「ママめし」ミニストリーを通して数百人を超える日本人留学生にキリスト教会による奉仕に関わり、そのうち何十人もの人がJCF

の集まりやキャンパス内の集まり、現地教会の集まりに参加し、数名は信仰を受け入れ、聖霊の動きを感じられました。

他にも数回にわたる短期日本ミッショングループのサポート、2019年にはメルボルン、シドニーに次いで第三回オセアニア日本人合同大聖会(J²ANZ)を実行しオセアニア各地の邦人教会から仲間を迎えヨハネ15章にある「つながり」と題して、共に祈り合う励ましの3日間が与えら

れたことは感謝に尽きません。

ブリスベン JCF20年

20年に渡り計り知れない神の

導きを感じ、励ましを受けましたが、海外集会の特徴である、長期のメンバーが少ないこと、次世代のリーダーが育ちにくい事などは大きな困難です。コロナ後に学生が大量に帰国したことにより、参加者の減少も問題です。その上で、すべてボランティアで行われている集まりですがこれからの展望として、今までの橋渡しと成長のためだけでなく、現地に永住の日本人がもっと救われるために、今あるミニストリー(なごみの家、二つの聖書勉強会、帰国者の聖書交流、ママめし)の上に、取りなしの祈り会、日本人をもっと誘うための交流会などで「つながり」を進めて行きたいと思います。一人でも多くの方が救われて、神にふさわしい栄光を返すことが出来るよう、皆さんの熱い祈りによって「つながり」ができますようにと、肌寒くなったブリスベンの地から祈っております。(つづく)



「ママめし」の奉仕者たち

伝道、プレゼントにもおすすめです。

聖書の集い・連続メッセージ

「讃美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」

第1巻～第9巻 刊行

多くの人たちに親しまれている讃美歌詩・聖歌詩の背景にある作詞者の信仰に焦点をあてる励ましのメッセージ集です。

中綴じB6サイズ ¥500(税別)

ご注文は「ミッション・宣教の声」事務局まで。

その時、
わがたましいは歌う
主幹 黒田 禎一郎

海外伝道シリーズ 旧東ヨーロッパの 教会と信者は今

171

モルドバ共和国
黒田 禎一郎

ウクライナ戦争と今後

ロシア軍がウクライナに侵攻して早くも5か月以上経過しました。この間、国連をはじめ世界先進国はどれも戦争を止められないという無力さを覚えます。もっとも心痛めることは、正確ではありませんが死傷者は双方で数万人も出ており、ウクライナ難民数は500万人を超えたことです。この戦争は続けば続くほど消耗戦となり、経済危機はさらに高まります。ロシア軍は侵攻直後から黒海に多数の艦隊を展開し、船舶の自由を阻止してきました。そのためウクライナ南部オデーサなどの黒海の港からは、穀物の約9割以上が輸出できない状態に陥りました。穀物が足止めされたことによって価格は高騰し、それに関連する肥料の価格も高騰し、今や世界的食糧危機の恐れが叫ばれています。私たちはどこにいても、この悲劇に関心ではられません。速やかな終息を祈り、出来る限りの支援をしていきたいと思います。



モルドバの民族衣装を着る青年たち

モルドバ共和国

ところで、このような非常事態の中で隣国モルドバには、40万人以上もの避難民が押し寄せました。入国後、ルーマニアやドイツに向かった難民も多くいますが、現在も約10万人が国内にとどまっています。一人の難民支援に対し平均して1日約30ユーロ(約4,500円)が必要

ですが、難民の75%は一般家庭に滞在し、善意で支援が成り立っていると言えます。小国モルドバはもうお手上げ状態で、EU諸国の支援を求めています。

ここで、日本人にはなじみの薄いモルドバ国を紹介しましょう。モルドバ共和国はウクライナとルーマニア間にある小国(九州よりやや小さい)で、人口約403万人(2020年)、首都はキシナウ(旧キシニョフ)です。民族はルーマニア系モルドバ人が75.1%、ウクライナ人が6.6%、ロシア人は4.1%等です。公用語はモルドバ(ルーマニア)語でロシア語も一般に通用します。モルドバは自然資源に乏しく、これという産業はありません。宗教はモルドバ正教会(ロシア正教会)とルーマニア正教会が並行し、福音派は少数です。しかしウクライナと同じく緑豊かな国です。旧ソ連時代には共産圏国家で、多数の教会指導者とクリスチャンたちが迫害を受けました。

モルドバのキリスト教会

昨夏、ロシア軍がウクライナ侵攻前までは静かで平和な国でした。本誌の今年2月号で、私はモルドバのキリスト宣教について書きました。現地のキリスト教会は児童伝道を通し成長してきましたが、それは実に貴重なミニストリーです。なぜなら、子どもから大人に福音が伝わり、救いに与かる方々が起こされてきたからです。1990年革命後、ロシアから解放されたモルドバには西側文化が急速に浸透し、それまで知らなかった物的豊さを追求するようになりました。しかし約30年の年月が経過して、国民は物やお金では真の幸福を得られないことを理解し始めました。

モルドバの忠実な聖徒たちによって、みことばの種が蒔かれてきた結果、それが発芽しキリストの教会は各地に誕生してきました。ワシリー伝道師は児童伝道に重荷を持ち、夏場は北中部スンジレイの「バイブル・キャンプ場」(エリム)で過ごしました。エリムはかつて開拓者たちが住んでいたバラックでしたが、そこを大改造しキャンプ場に建て直しました。そのエリムで多数の子どもたちがイエスをキリストと信じ救われていきました。中には

ストリート・チルドレンや孤児たちも、迎えられ福音を聞きました。それが可能となった背景には、西側のキリスト教会とクリスチャンたちの全面的支援が(子どもたちのキャンプ参加費用は全額免除)ありました。救われた子どもの中には、かつて孤児であった子が今では教会執事となり奉仕しています。それは主が成された尊いわざです。



モルドバ北部の森の中にあるキャンプ場「エリム」

モルドバの聖徒の祈り

児童伝道は教会と国の将来に大変重要な働きです。なぜなら若者が教会の未来を担うからです。モルドバでは長年にわたり正教会が建てられてきましたが、キリストの福音が語られてはいませんでした。しかし今キリストの福音が語られ、青年たちのたましいが救われています。ワシリー伝道師は、「私たちの祈りと願いは、この小国が間違ってもウクライナのようにはなってはならない。」と語っています。現在のプーチン・ロシア政権の国家観では、それを否定する根拠はありません。モルドバもかつては旧ソ連の一国で、ロシアの兄弟国であると主張しているからです。主が小国モルドバをお守りくださるよう、心を合わせて祈りましょう。

(つづく)



農場での民族衣装

「それでも、あなたはわたしを愛しますか」

私たちがイエス・キリストを受け入れ、神と共に歩む人生は祝福と喜び、平安に溢れています。しかし、天のお父様はその子どもたちに、苦難の無い人生を決して約束された訳ではありません。キリスト者であるということは、この世で出会う多くの苦難に加え、それぞれに課せられた十字架の道へ導かれることがあります。苦しみや悲しみの全ては神の御手の中にありますが、時に私たちは、神の意図することが理解できません。私たちが苦悩するひとつには、その苦難の答えが見えないことにあります。

終わりの見えない苦悩

現在、70才になるイム・キョンジャの故郷、北朝鮮清津市は、日帝統治時代に建てられた製鉄所などが建ち並ぶ工業地帯であり、日本海に臨む美しい新都市です。その都市で生まれ育ったキョンジャは、やがて結婚し、5人の子どもを授かりました。清津のように工業が発展した都市であっても、国民たちの生活は困窮し、キョンジャたち家族も貧しい暮らしの中で生きていました。そんな時、悲劇が一家を襲い、1990年代の大量餓死により、彼女は二人の子どもと夫を餓死で失いました。失意の中でも、残された3人の娘たちを養っていかなければならず、彼女は泣いている暇もありませんでした。石炭や鉄屑を拾っては売るものの生活は苦しく、生きるためにキョンジャは街頭に立つしかありませんでした。幾年月どんなに働いても、貧しい生活から抜けることはできず、終わりの見えない苦悩に疲れ果てた彼女は、いつの間にかひとり、中国大陸へ向かっていました。

主のために生きる新しいいのち

50才になっていたキョンジャが、痩せ細った体で豆満江を渡り切ると、目を開けて息することがやっとなほどでした。しかし、祖国に残してきた3人の娘たちのためにも、ここで野垂れ死にするわけにはいかないと自らを奮い立たせました。幸いなことに、キョンジャは朝鮮族教会に助けられ、教会の人々は彼女に栄養をつけさせたものの、回復の見込みが難しいとされるほど彼女は衰弱していました。

生死をさまよっているようなそんな時にもかかわらず、キョンジャはキリストと出会い、その神との出会いが、彼女に新たな生命の息吹を吹き込んでくれました。彼女は聖霊の力によって、これまでの暗黒の人生を悔い改め、イエス様の十字架の血潮はキョンジャの心だけでなく、肉体も癒し、彼女は驚くほど回復していききました。韓国人宣教師たちや教会の助けで、キョンジャは娘たちに食べ物を送ることができました。22才の長女を筆頭に、暗黒の地に残してきた3人の娘たちを神に委ね、我が身も神に捧げることにしました。神様によって再生されたキョンジャは、これからの人生は全てイエス様のためだけに生きようと決意しました。その決意は、祖国北朝鮮へ死にいくために帰るのではなく、大韓民国で主のために生きる道へと彼女を導きました。

神が許された痛み

キョンジャは大韓民国で献身者となるべく訓練を受け、その傍ら、娘たちへの送金や救出するための資金を稼ぐため、彼女はなりふり構わず働きました。彼女は宣教師として仕えながら、絶えず北朝鮮への祈りを捧げ続けました。そんな時、彼女は同じ境遇であった、今の夫と出会いました。キョンジャと夫はともに神学校課程を終え、厳しい試練の中であっても、二人は脱北民教会を開拓し、北朝鮮にも福音を伝えていきました。キョンジャは3人の娘たちにも福音を伝え、娘たちも北朝鮮で密かにイエス・キリストをそれぞれの人生に迎えました。ところが、長女の信仰が当局に発覚し、長女は苦しい末、獄死してしまいました。愛する子どもをまたひとり、天へ見送るという悲しみに打ちひしがれたキョンジャは、慟哭の中、神を恨み、どうしてこんなことができるのかと叫びました。主は、悲しみ、苦しみもがく彼女に寄り添って下さり、一歩も進めなくなったキョンジャを背負い続けて下さっていました。子を失った悲しみの痛みが、また新たに彼女の心に刻まれ、これから先ずっと、その痛みと共に生きていかなければなりません。けれども、主がそれを許されたことならば、その痛みをそのまま受け入れ、キョンジャは再び主の御手に我が手を委ねました。いつの日か、自分も行くであろうその場所に愛しい者たちがいると思うと、天の故郷が

近くなったような気がしました。

「それでも、あなたはわたしを愛しますか」

今、北朝鮮に残っている二人の娘たちは、姉の死にも屈することなく、信仰を守り続け、その地で福音を伝え続けています。この世の全てにおいて勝利を取られた主イエス様は、様々な試練の中を生きるキョンジャと娘たちを圧倒的な勝利者へと変えて下さいました。

この世に出会う苦難の意味に、神が後々になって答えて下さることもあれば、結局この世では、その意味が全く知ることできなかったということもあり得ます。天の父なる方でさえ、その御子を十字架によって傷つけることを許されたならば、ましてや神のしもべなる私たちに、何の痛みや傷もない人生が存在するでしょうか。私たちの人生に苦難が与えられ、その意味を最期まで知らされないとしたら、主イエス様はそんな私たちに一つの質問をされるのではないのでしょうか。それは、ペテロに三度問いかけた同じ質問を私たちそれぞれにも投げかけています。

「それでも、あなたはわたしを愛しますか」と。

イム・キョンジャのように、北朝鮮の多くの兄弟姉妹たちのように、私たちも暗闇の中で何も全く見えない時も、主を愛することを諦めることなく生きようではありませんか。

イエスは三度ペテロに言われた。
「ヨハネの子シモン。(それでも)あなたはわたしを愛しますか。」(ヨハネ21:17)

(名前は仮名です)(次号につづく)



南北国境線を警備する兵士たち(南側)

パキスタン

●ラホレで人権擁護の立場に立つアネーカ・アントニー弁護士は、21歳のクリスチャン女性であるパトラス・マシー氏の人権擁護を担当しています。一例としてパトラス氏はイスラム教宗教指導者から、イスラム教を軽視した言動から傷を受けたと訴えられています。アネーカ・アントニー弁護士
また17歳の少年はフェイスブックでイスラム教を軽視する画像を流したという理由から取り締まりを受け、2018年以来拘束されています。パキスタンの法律では預言者マホメットを冒瀆する行為は、死刑判決を受ける厳しい処分となります。また聖典コーランを誹謗中傷する者には、終身刑が課せられます。パキスタンの法律では裁判審議が2年間進まない場合、被告は保釈金を払い釈放されることとなっていますが、いずれも拒否されてきました。アントニー弁護士は他に6件の同じようなケースを擁護中です。お祈りください。



アネーカ・アントニー弁護士

●パキスタンは1947年に建国されましたが、9年後に世界初のイスラム国宣言をした国家です。そのためクリスチャンと他の宗教の信徒は、非常な忍耐を強いられています。宣教は許されますが、イスラム教徒への伝道は禁止です。イスラム教冒瀆に関しては厳しい罰則があり、国民は不安を抱えています。



地下教会で礼拝するクリスチャンたち

そのような中でも、宣教団体「アガペー・トラスト」のミッション・スクールが建てられ、校門前には警察官と武装した保安官が立っています。治安はよくありません。2013年には、礼拝を終えた信者が中庭でお茶を飲んでいたら、IS(イスラム国)の2人の自爆テロリストの襲撃によって100人もの人々の命が失われました。今年1月末、ベシャワでも聖公会の2人の聖職者がタリバンによって殺害されました。その後、シーア派の信者が同じく殺害されました。

このような社会状況下で、クリスチャンたちは他の国々に比べて強い結束力を持っています。彼は主にあって忍耐を持ち祈り、活ける主を礼拝しています。どうぞ、パキスタン国と法律、特にクリスチャンのためにお祈りください。

ナイジェリア

今年のペンテコステの聖日に、オヴォのキリスト教会が何者かによって襲撃され100人ほどが死亡しました。犯人と事件の詳細は不明ですが、ナイジェリアではクリスチャンと教会に対するゲリラ攻撃が頻繁に起こっています。5月29日には、ナイジェリア・メソジスト教団最高責任者サムエル・カヌー・ウチェ牧師が南東のアビア市を訪問中、同行していた二人とともに武装犯人たちに誘拐されました。しかし彼らは翌日解放されましたが、犯人側は身代金約2億8千万円を要求していました。実際に身代金が支払われたかどうか不明です。キリスト教

会やクリスチャンへの襲撃事件はこれまで、比較的安全と言われた南部で発生していましたが、今回のオヴォの事件によって大きな緊張が走りました。ナイジェリアはこれ

までもクリスチャン迫害度の高い国として知られていますが、憎悪と暴力からくる殺人行為は止まることはありません。被害者は男性だけでなく女性と子どもたちにもおよび無差別殺人が発生しています。人口約2億600万人のナイジェリアでは、イスラム教徒とキリスト教徒との衝突が続いています。どうぞ、この国のためにお祈りください。



破壊された礼拝堂



病院で手当を受ける人たち

イスラエル

5月11日ヨルダン川西岸ジェニンで、クリスチャン・ジャーナリストのシレーン・アブ・アケー女史(51歳)が銃殺されました。アケー女史はアラビア系チャンネル・アルジャジーラの記者で、イスラエル軍のミッションを取材中でした。誰がどんな目的で、彼女を殺害したかは不明です。彼女はパレスチナ自治政府と米国の旅券を所持していました。パレスチナ自治政府のアッバス議長はイスラエル側の葬儀への協力を拒否しました。葬儀はシンボリックな形式となりました。パレスチナ自治政府とイスラエル側双方は、この厳重な警戒態勢下で、なぜこのような事件が起こったか不明であると主張し、国際裁判所へ提訴するとのことです。

5月13日に行われた葬儀では、パレスチナ人とイスラエル警察との間で衝突が発生しました。イスラエルの安全機関の発表では、暴動は約300人にもふくれ上がりました。そのためアケー女史の棺を墓地まで移送することが困難となり、家族と友人たちによる徒歩による墓地への行進は中止されました。棺はイスラエル警察の厳重警戒のもとで、セント・ヨセフ病院から墓地へ移送されました。その様子はビデオで中継されましたが、それでもツイッターなどで集まった群衆が投石し棺の搬送を妨害しました。このように突然、アルジャジーラのクリスチャン記者の命が失われました。お祈りください。



アケー女史のシンボリック(象徴的)な葬式

イラン

イスラム教国イランでは、イエス・キリストを信じる聖徒たちは地下教会で信仰生活が強いられています。しかし地下活動の全ては違法であり、摘発されると厳しい尋問による取り調べ、さらに拷問が課せられ非人道的な調べが続きます。収監先の刑務所ではさらに過酷な生活が待っています。2020年だけで、クリスチャンがイエス・キリストの信仰のために裁判で受けた判決月数の合計は、1,760ヶ月にもなりました。保釈金だけでも1億2千万USドルです。今も多数の兄弟姉妹が投獄されていますが、ここに3人を紹介します。

ナサール・N・タペー兄弟は2016年6月24日に逮捕されましたが、4ヶ月後に保釈金を積み出所しました。しかし2017年5月再逮捕され、10年の刑を受けました。そして2018年1月20日以来、彼は悪名高いエビン刑務所に移動させられ厳しい拷問を受けています。彼は改善要求を3回申請しましたが、すべて却下されました。次にカリル・デークハンポア兄弟です。彼は2019年1月29日、カリルの地下教会で突然家宅捜査を受け信仰書、携帯電話、身分証明などが没収されました。この地下教会牧師はすでに逮捕されており、デークハンポア兄弟がその任を務めていたところでした。現場にいた他の8人の兄弟たちも同じく逮捕されましたが、デークハンポア兄弟は5年の刑を受け服役中です。3番目のザエス・ザマン・ファダイエ兄弟は聖餐式で「ぶどう酒」（イランではアルコール禁止）を口にしていた理由から逮捕され、80回の「ムチ打ち刑」と6年の実刑、さらに2年の国内の流刑判決を受けました。このような厳しい国においても、イエスをキリストと信じる聖徒たちは信仰を捨てることなく、活ける主に仕えています。どうぞ祈り覚えてください。

ドイツ

● 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) はパンデミックを引き起こしましたが、その最中にキリストの教会 (改革派福音自由教会) が新しく誕生しました。2020年、ミハ

エル&エスター・クリムプシュ牧師夫妻はブランデンブルク州の小さな町プリツヴァルクで、開拓伝道を開始する決心しました。ミハエル・クリムプシュ牧師は、南ドイツのキルヒブルク聖書学校で神学教育を受けた後、あえてクリスチャンが非常に少ないこの町に移り住み伝道する心に燃えていました。ところが彼らが現地入りし教会の開所式を始めようとした時に、コロナ・パンデミックが来ました。集会を開くことは禁じられ集まることができなくなりました。



クリムプシュ牧師夫妻

そこで彼らは町の中央にあるマルクト (青空市場) で、毎週末に野菜、果物、チーズ等が売られている横にテーブルを置き、聖書、トラクト、信仰書、教会案内チラシ等を陳列し買い物にきた人たちに個人伝道しました。しかし、公式に集まり礼拝を開くことはコロナ禍で許されませんでしたので、毎週オンラインによる祈禱会を始めました。すると祈禱会が次第に発展し、集会所を借りて集まることができるようになりました。クリムプシュ牧師夫妻は、「急いで教会建設に取り組むのではなく、出来ることに忠実でありたかった。」と振り返り語っています。彼らは生ける主である神を信頼し、将来的には自分たちの会堂を建てる導きを受けているそうです。コロナ禍で誕生したキリストの教会は、良い証しとなっています。どうぞ、お祈りください。

● ヴェルテンベルク州立図書館には、世界に類のない多種の聖書が陳列されています。ここでは単に「いのちのことば」としての聖書というより、歴史の中の美術的視点から「目でみる聖書」が並べてあります。この図書館には800言語で約2万2千冊の聖書がありますが、実際には109冊の聖書が陳列されています。それも厳重なガラス箱の中に保管され、他は一般陳列されていません。この図書館でもっとも貴重な聖書と言われるのは、1630年の手書きの「メリアン聖書」です。この聖書はスイス人彫刻家マテアス・メリアン (1593年～1650年) による234枚のピックアップです。当時、この聖書はもっともよく知られた聖書で、はじめにメリアン氏は「この聖書は私一人で完成したものではなく、神の不思議な導きと敬虔な心で熟考した結果である。」と記しました。芸術家の信仰心と聖書の神学的深さは、多くの作品に反映されるものです。興味深い点は、歴史とともに多くの芸術家たちが聖書に心動かされ作品を残したことです。歴史の中には、画家レムブラント (1606年～1669年)、画家シャガール (1887年～1985年)、シュールレアリストのサルバドール・ダリ (1904年～1989年) 等、多数の聖徒がいます。

興味深い聖書としては、なんと世界一長い聖書があります。2013年に召されたシュトゥットガルトの画家ヴィリー・ヴィーダーマンは彼の死後、息子によって屋根裏にあった箱の中から貴重な絵が発見されました。その絵は創世記からヨハネ黙示録までの計3,333枚で、並列すると1.17kmにもなる世界一長い絵聖書と言われます。敬虔派信仰の影響を受けた彼は、16年間の年月をかけて描き上げそうです。ヴェルテンベルク州立図書館では、このように他に類ない様々な聖書が陳列され話題となっています。



陳列棚に見られる聖書

ミッション・宣教の声 The Voice of Mission

〒541-0041 大阪市中央区北浜 2-3-10 VIP関西センター 5F
TEL 06-6226-1334 FAX 06-6226-1336
E-mail senkyo@vomj.jp http://vomj.jp/

発行人 黒田禎一郎
年間購読料 ¥2,500 (送料込)

郵便振替口座 00940-3-301623
銀行口座 三菱UFJ銀行 堺東支店 (店番 205)
普通口座 3623132 「ミッション・宣教の声」

The Voice of Mission
MUFG Bank, Ltd. Sakai Higashi Branch
Bank account No. 3623132 SWIFT CODE : BOTKJPJT
Bank Address : 59-2 Mikunigaoka-Miyukidoori, Sakai-ku,
Sakai-shi, Osaka-fu 590-0028 JAPAN TEL: 81-72-221-3041



■ ウクライナ戦争が長期化する中、多くの必要が生じています。私たちは円安の中、日本から愛の支援を避難民に続けています。どうぞ続けて祈り覚えてください。

■ 6月22日、タリバン制圧のアフガニスタンで大地震が発生し、死者だけで1千人以上が出ました。外部と遮断し国交がない国で、聖徒たちを覚え非常に心が痛みます。お祈りください。

■ 独裁政権がつづくミャンマーでも同じく迫害が続いています。明るいニュースにとほしい日々ですが、私たちは彼らのために祈り、できる限りの支援をいたく願います。皆様のミッションへのサポートにも感謝します。